

令和3年4月6日

令和3年度 入学式告辞

九州工業大学長 尾家祐二

ご入学おめでとうございます。

春爛漫の今日、ここに入学式を挙げるにあたり、栄えあるこの日を迎えられました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、この上ない喜びであります。ご家族の皆様におかれましても、お喜びのことと拝察致します。教職員を代表してお祝い申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い、関係する方々の健康面・安全面を考慮し、感染拡大のリスクをできるだけ減らすために、入学式の中止を決定しました。大変残念なことでした。皆さんはこの1年余り、特に様々な苦労を経験されたと思います。改めて、この日を迎えられました皆さんのご努力に敬意を表します。

これから皆さんが学ぶこの九州工業大学は、1909年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、安川敬一郎氏です。安川氏は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設し、その教育と研究を東京帝国大学総長であった山川健次郎氏に託されました。山川氏は、開校式において、品格と創造性をもつ人材の輩出を目指すことを宣言し、その志は、「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の建学の理念として、110年以上の歴史を越えて脈々と伝えられ、現在に至っています。

この110年あまりの間に、日本および世界は数々の戦争、大規模災害、疫病の流行や世界的な恐慌など、様々なことを経験しました。この度、新型コロナウイルス感染症が拡大し、世界中で1億人以上の人たちが感染し、経済面においても、「世界は戦後最悪の経済危機に直面」したことが伝えられ、歴史上の大きな出来事となりつつあります。100年以上前のことですが、1918（大正7）年からのインフルエンザ、いわゆる「スペイン風邪」の流行によって、世界中で5億人以上の人たちが感染し、死亡者数は2,000万人とも4,000万人とも推定され、日本においても、2,500万人が感染し、38万人が死亡したといわれています。

過去を振り返ると、想像もできなかったような様々なことが起きています。一方で、過去から英知を学ぶこともできます。哲学者イマヌエル・カントは、200年以上前に著した本の中で、「すべてが価格または尊厳を持つ」、そして、「あらゆる価格を超え、したがって等価物の存在をゆるさぬものは、尊厳を持つ」と言っています。この度は、日々の生活がいかに大切なものを多く含んでいる

かを感じ、人の命の尊さについて改めて考える機会にしたいと思います。

私たちの時代は、技術革新が目覚ましく、グローバル化が進展し続け、しばしば「VUCA」（不安定（Volatility）、不確実（Uncertainty）、複雑（Complexity）、曖昧（Ambiguity））という言葉で特徴づけられていました。私たちは、今、このようなウイルス感染症の世界的規模の拡大に直面し、物理的な移動が大きく制限され、様々な社会活動、経済活動が多大な影響を受けています。より一層、不安定性、不確実性などが増していると言えます。

本学は、建学の理念に基づき、このような時代においても、活躍し続ける高度な工学系人材の育成を実践しています。そして、高度な専門知識とスキルを身に付けるだけでなく、それらの知識とスキルを活かし続けるために必要な能力として、多様な文化を受容する能力、コミュニケーション力、自律的学習力、課題発見・解決力（探究する力）、デザイン力（エンジニアリング・デザイン）の5つを合わせてグローバル・コンピテンシーと呼び、それらを身に付けるために、多様な学習機会を提供しています。

未来社会では、今はまだ想定されていない課題が生じることでしょう。しかし、それに対し、皆さん達が、今はまだない技術や方法を生み出し、それらを解決していくこととなります。将来、多様な考え方を認め合い、知恵を出し合って、課題を見極め、社会的価値を生み出す課題解決に貢献することができるように、学生時代に学び、考え、多くの事を試みてください。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、まだ様々な制約がある中ではありますが、入学された皆さんが、かけがえのない日々の暮らしや人の命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、生活と学びを楽しみ、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされまことを心から希望致しまして、告辞と致します。本日は誠にありがとうございます。

（参考）

1. 2020年度通商白書
<https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2020/index.html>
2. 平成16年度版厚生労働白書（感染症に関しては、第1部第2章）
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/04/>
3. カント著「プロレゴメナ、人倫の形而上学の基礎付け」中央クラシックス
「人倫の形而上学の基礎づけ」から引用。
4. OECD Education 2030 プロジェクト
https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper_Japanese.pdf